

橿原市立図書館だより

令和元年10月18日発行
第41号

橿の樹

インターンシップ 2

図書館員の本棚 3

お知らせなど 4



インターンシップ

図書館では中学生、高校生のインターンシップや、大学生の図書館実習に協力しています。9月は奈良県立教育研究所キャリアサポートセンターが実施している高校生2名のインターンシップを受け入れました。図書館でのカウンター業務の他、外部イベントのお手伝いにも参加してもらいました。



高校生の感想

三日間の貴重な体験

図書館で働くことは、とても大変だと私は、思いました。初め、図書館で働くことは少し楽なのかなと思い、楽しみにしながら図書館に行きました。しかし、私の予想とは違い、本を何冊も運ぶことは重労働でした。

今回の体験でとてもたいへんだったことは、本のコート掛けです。それをするだけで本は長持ちします。けれど、私は不器用だからそれをするのはたいへんでした。空気をいれないように頑張りましたが、それでもはいつてしまうことがありました。コート掛けを機械ではなく、全て手作業でしているからとてもすごいと感じました。

図書館での仕事は、つらいこともありましたが、本を並べたり、関係者以外入れない閉架書庫に入ることができたりと楽しさや驚きがありました。本当に貴重な体験ができてよかったです。 T

三日間をおえて

三日間のインターンシップをおえた感想は「楽しかった」です。普段では、めったに入れない所や開館前の館内など、自分が知らない事だらけでした。自分は、実習中にかんばった事は、あいさつです。最初は図書館なのでどれほどの大きい声を出していいかわかりませんでした。でも来館者の人にあいさつをしないのは、失礼なので声を出さなくてもハキハキとしゃべるように心がけました。一番難しかったのはレファレンス実習です。図書館の本を使って調べものをするのが大変でした。大量の本の中から質問に合った本を見つけるのが難しかったです。分かりやすい回答を見つけて伝える事が自分には無い力だと思いました。この三日間で楽しかった事、大変だった事色々ありましたが、今後はそれを生かして将来の事に役立てていきたいです。 U

(感想は原文のままです。)

図書館員の本棚(25)

『おしいれのぼうけん』 童心社
ふるた たるひ／さく たばた せいいち／画



次男が通う保育園で「先生に途中まで読んでもらって、続きがとても気になったから」と言われ、図書館で借りることになりました。この「おしいれのぼうけん」という本は私自身が子どもの頃に読んだ数少ない記憶に残る1冊でもあります。初版が1974年ですから、これまでも多くの人に読まれてきた本の1冊だと思います。子どもでもイメージすることができる「おしいれ」があって、その中を「ぼうけん」するなんて、どんな冒険だったのでしょ

うか。絵本の舞台はさくら保育園。この保育園には二つのこわいものがあります。一つは、言っても言っても言うことをきかない子どもを、自ら反省を促すために閉じ込める「おしいれ」で、もう一つは、先生たちの人形劇に出てくる「ねずみばあさん」です。

子どもたちの二つの「こわいもの」が、園児であるさとしとあきらの「おしいれ」の中での出来事によって、物語の最後には「たのしいこと」だという気持ちにガラッと変わります。どうして「こわいもの」から「たのしいこと」へ180度も気持ちが変わったのでしょうか。子どもたちの様子を注意深く追ってみると、気持ちの移り変わりがとてもよくみえてきます。

登場人物に目をやると、あきは、ベソをかいている所が多く、一見気弱そうな印象を受けますが、「ねずみばあさん」たちに捕まり食べられそうになった時には、さとしにはっとさせるほど、「自分たちは悪くないから謝らない」と強く主張しています。実はさとしよりもあきの方が、芯が強い子なのかもしれませんね。

また、みずのせんせいにも注目してみてください。親の立場になったからこそ気づくことが多くなったのかもしれませんが、「おしいれ」に閉じ込める時は、決して傍を離れず、子どもがごめんなさいを言い出すまで、「おしいれ」の中の様子を、ずっと辛抱強く我慢して見守ってくれているのです。

改めて読み返してみると、昔には気づかなかったことに気づいたり、新しい発見があったりして、なんだか新鮮でとても嬉しい気持ちになります。

絵本は全部で80ページ。4歳・5歳児クラスの子どもたちに最後まで読み聞かせをするのは難しい本ではありますが、場所は家、時間はたっぷりあるので、嬉しくなった気持ちを込めて、最後まで自分の子どもたちに読み聞かせてみよう。一体どんな反応してくれるのか、楽しみでもあります。

まだ読んだことがない方も、これまでに読んだことがある方も、『おしいれのぼうけん』の中に入れてみてはいかがでしょうか。

橿原市立図書館

橿原市小房町11-5

TEL:
0744-29-2121

FAX:
0744-29-1011

<https://www.city.kashihara.nara.jp/>

編集後記

宿題

数年前から「図書館の福袋」という企画を年始に開催している。図書館員が自由にテーマを設定し、そのテーマに沿って選書した数冊の本を袋に入れ、POPを作成、本のタイトルを隠した状態で展示する。前は70セット以上の福袋が3日間ですべて貸し出されてしまった人気企画。今年もこの時期に担当者から福袋作成協力という宿題をいただいた。ノルマは1人2セット以上、無記名なので誰の作品かわからないが、図書館員としてのこだわりがハードルを上げてしまう。テーマにもこだわりたい。絵心はないが、センスが良いPOPを作りたい。テーマから安易に推測できる選書は避けたい。あまり知られていない書庫に眠っている本を選びたい。なにより自分が作成した福袋が最後まで売れ残るのだけは避けたい。これまで数セットの福袋を作成してきたので、ネタが尽きてきた。そろそろ過去に作成したテーマを使い回せば良いじゃないか？と心の声が聞こえる。悩んでいるうちに締め切り日が迫ってきた。何歳になっても宿題に悩まされる。図書館員の血と汗の結晶「図書館の福袋」をお楽しみに。(編者)

お知らせ

「がん情報ギフト」をご寄贈いただきました。



国立がん研究センターでは、全国の図書館にがん対策情報センターが発行するがんに関する資料を寄贈し、信頼できるがんの情報を得て、さらに地域のがん相談支援センターにもつながっていただけるよう、誰もが安心して利用できる環境づくりをめざす「がん情報ギフト」プロジェクトを行っています。

今回、国立がん研究センターから「がん情報ギフト」を寄贈していただきました。がんは国民の2人に1人がかかるという多くの人が罹患する病気です。がんの疑いがある時やがんと診断された時、間違った情報に惑わされることなく、正しい情報にいち早く辿り着けるよう、「がん情報ギフト」をご利用ください。2階カウンター前に設置しています。

「がん情報ギフト」の内容

がん対策情報センターが科学的根拠に基づき作成しているがんに関する冊子のセットです。

各種がんシリーズ、がんと療養シリーズ、社会とがんシリーズ、がんを知るシリーズ、がんと仕事 Q&A、小児がんシリーズなどがあります。



がん情報サービス(国立がん研究センターがん対策情報センター)のホームページ(<http://ganjoho.jp>)からもPDF版、音声版をダウンロードできます。

表紙の写真

2階カウンター前「がん情報ギフト」展示の様子